

産部会が「第50回農林水産祭天皇杯」を受賞しています。



## 「アテモヤ」

アテモヤは緑色でゴツゴツした見た目のとても甘い果物です。南米原産のバンレイシとチェリモヤという果実を掛け合わせてできた品種で、これらの果実もアテモヤと似た色と形をしています。

アテモヤという名前は、バンレイシのブラジル名である「アテ」とチェリモヤの「モヤ」からとられたものです。フロリダで生まれ、恩納村では1988年頃から栽培が始まりました。沖縄の果物といえばマンゴーやパイナップルのように夏のイメージがありますが、ア

テモヤの旬は1〜4月と、ちょうど今が食べごろです。

『平成24年度版 統計おんな』によると、2007年から2011年にかけて順調に作付面積も増えており、2012年には拠点産地として登録されました。テレビ番組でも紹介されるなど、着実に広まりつつある果物です。



村では他にもパッションフルーツ、ドラゴフルーツ、マンゴーといった果物、小菊や



ドラセナなどの花き、泡盛「萬座」、2015年からは長野県川上村と共同で栽培しているシンカレタスなど、多種多様な特産品がつくられており、今回紹介したものはその中のごく一部です。まだ食べた事のない方は、ぜひお試しください。

(仲村)

### (参考文献)

- 「沖縄海ぶどう陸上養殖の歩み―漁協と家族ぐるみでつくりあげた新しい海藻養殖―」恩納村漁業協同組合海ぶどう生産部会 銘荻宗和 2010
- 「広報おんな 360号」恩納村役場 2011
- 「広報おんな 371号」恩納村役場 2012
- 『水産振興』第540号「沖縄県恩納村漁協「地域漁業活性化計画」の成功要因―モズク・海ぶどう養殖、リゾート対応と人材―」一般財団法人東京水産振興会上原政幸 2012
- 『平成24年度版 統計おんな』「6・農業及び漁業」恩納村役場企画課 恩納村役場 2013